

平成28年度 徳島県立農林水産総合技術支援センター 農業大学校学校評価 総括表

本年度の重点目標② 地域農業への寄与 農業体験学習、模擬会社の運営、6次産業化への取り組みなどを通じて、社会との連携を深め、総合的な指導体制のもと、幅広い経営能力を養成するとともに、地域農業等に寄与する。				総合評価 A		「評価」及び「総合評価の評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった
課題	活動計画(具体的方策)	評価指標(数値目標)	評価指標の達成度と活動の実施状況	評価	評価	次年度への課題
① 栽培から販売までの知識と技術を持った人材の育成 (生産技術コース)	1 栽培・飼養管理について役割分担し、毎日栽培・飼養管理を実践させ、年間を通した体系的・実践的な農業の知識並びに技術を習得させる。	学生の自己評価において、栽培・飼養に関する知識及び技術の習得度を評価し、それらの到達度を80%以上にする。	栽培・飼養管理について、プロジェクト課題解決学習を通じて、役割分担して、コース実習等の時間を活用して、年間を通した体系的・実践的な農業の知識並びに技術を習得させた。	B	B	単純にプロジェクト課題解決学習を通じて、コース内での役割分担だけでなく、センター内の研究部門との連携を密にして知識、技術の習得を図る。
	2 「農大祭」や「きのべ市」で販売する野菜や加工品等の機能性や調理方法、花苗の栽培方法等について学習する時間を設け、十分な知識を習得させる。	学生の自己評価だけでなく、消費者に対し、学生の農作物に対する栽培・貯蔵・流通・販売等に関する知識に関するアンケート調査を実施し、客観的な評価を導入する。それらの到達度を80%以上にする。	「農大祭」や「きのべ市」で販売する野菜、花きや加工品等について栽培・貯蔵・流通・販売等に関する知識の習得を図った。	B		「農大祭」、「きのべ市」での販売を想定した生産だけでなく、他のコースとの連携による周年出荷、加工品生産を行う。
	3 地域や消費者の需用・用途に応じた「生産・販売計画」を作成させ、地域の特色を活かした作目の課題解決のための高度・専門的な栽培・飼養技術を実証するとともに、経営面から考察させる。	地域に貢献できるような課題解決プロジェクトを1課題以上選抜し、その成果を地域に発信する。	地域に貢献できるような課題解決プロジェクトを6課題設定し、平成28年度は農大のホームページで3課題を発信し、平成29年度センターニュースで2課題発信予定である。なお、平成28年度センターニュースでは2課題の発信により、地域への貢献に努めている。	A		次年度プロジェクト課題については15課題(野菜・花き10課題)あるため、学生指導の精度が低下しないように務めたい。
② 多様な地域資源を活用できる人材の育成 (地域資源活用コース)	1 地域資源を活用した先進事例や地元での地域資源に関する情報提供を積極的に行い、プロジェクト活動への取り組みに活かす。	教員から情報提供を行うと共に学生の発表機会を年間4回以上持つ。	コース実習・演習の時間を活用し、自らがほ場で生産している作物やこれから生産しようとする作物、加工、市場流通等の知識について情報提供に努めた。 本年度は、阿波すず香、阿波番茶、タラノメ、夏秋ナス、タケノコ等を教材として取り上げ、商品開発、販売方法の検討等について試みた。	A	A	阿波晩茶を毎年、生産・販売しており、消費者からも好評を得ている。このように、毎年販売する定番商品作りを試みる。
	2 市場や大手量販店での流通販売に関する研修や産地視察研修を実施し、最前線の情報をダイレクトにプロジェクト活動に活かす。	先進地での校外研修を年間2回以上実施し、学生の自己評価において、当該活用技術の理解度を80%以上にする。	本年度は、大阪府堺市で農業公園と隣接する大規模産直市の視察、大阪府立大学の最新鋭植物工場の視察、大阪市中心卸売市場ならびに大阪市内デパートの青果売り場で青果の流通販売の実際を体感する視察・調査を行った。都市部の青果流通の実態にふれることで、研修内容をプロジェクト学習に活かした。 地域資源の活用技術の習得に対する学生の肯定的評価は、2年次生が71%、1年次生が94%であった。	A		市場や大手量販店での流通販売に関する研修や産地視察研修を実施し、最前線の情報をダイレクトにプロジェクト活動に活かすよう次年度も取り組む。
	3 「スダチ」について、加工方法の確立した「スダチジャム」に加え、新たに「ピール」の商品化に向けた加工方法等の検討を行う。 「阿波すず香」について、引き続き活用方法の検討を行い「ジャム」、「ピール」、「阿波すず香こしょう」等商品化に向けた検討を行う。	「スダチ」、「阿波すず香」を用い、各2種類以上の検討または開発を行う。	「スダチ」については、すだちゼリー(スダチの皮入・なし)2種類を作成した。ら・らフェスティバルで試食・アンケートを実施し、概ね良好な評価を受けた。商品化には、食感等改善の余地がある結果となった。 「阿波すず香」については、ケーキ、阿波すず香こしょう、オレンジトを作成し、阪急オアシス石屋川店(神戸市)で試食・アンケートを実施した。都市部の消費者対象に概ね良好な評価を受けたが、ケーキ、オレンジトは食感に、阿波すず果こしょうは本来の品質が確保できず保存性に課題があった。	A		「スダチ」、「阿波すず香」とも商品化には至らなかった。しかし、消費者アンケートや消費者意見をもとに改善点が明確になったので、より商品化に向けた取り組みが必要である。

課題	活動計画(具体的方策)	評価指標(数値目標)	評価指標の達成度と活動の実施状況	評価	評価	次年度への課題
③ 地域農業の振興につながるビジネススキルを身に付けた人材の育成 (アグリビジネスコース)	1 学外での実践活動における、市場調査等を通じて、消費者や社会のニーズを把握、分析させ、商品開発や販売戦略等に活かす。	市場ニーズの把握に取り組んだ学生プロジェクトを50%以上とする。	2年次生の57.1%が、消費者ニーズの把握に努め、卒論に活かしたと回答した。	A	A	全プロジェクトについて、消費者ニーズを把握するためアンケートを実施する
	2 コース実習、卒業論文等の課題解決の過程に「プロジェクトマネジメント」、「ブレインストーミング」等の各種の手法を習得させる。	1つ以上の課題解決のための手法を利用できるようになった学生を80%以上とする。	1年次生は80%、2年次生は85.7%の学生が、1つ以上の手法を習得できたと回答した。	A		ブレインストーミングは必ず実践指導し、できるだけ、他の手法も教える。
	3 学生のプロジェクトにおいて、「6次産業化」を視野に入れた新たな農業ビジネスモデルを研究・実践し、成果を卒業論文に盛り込む。	「6次産業化」を視野に入れたプロジェクト研究に取り組んだ学生を50%以上とする。	2年次生の57.1%が6次産業化を視野に入れた取り組みをしたと回答したが、卒論に盛り込んだのは7名のうち1名で14%であった。	B		6次産業化を視野に入れた取り組みを推進する
課題	活動計画(具体的方策)	評価指標(数値目標)	評価指標の達成度と活動の実施状況	評価	評価	次年度への課題
④ 地域農業への寄与のための体制づくりと、研究成果や学生生活に係る積極的な情報発信	1 平成24年度より導入した加工関連講座を充実させ、商品開発に取り組み、地域社会へ発信する。	コースや模擬会社において、加工品を2品以上試作し、地域に発信する。	「すだち果汁」を瓶詰めからペットボトル容器入りに変更し販売するとともに、農大祭で「阿波すず香果汁」を、東京で「ドライキンカン」を試作販売した。	A	A	専用教室の業許可の制約と授業(加工実習等)の棲み分けが課題である。
	2 学生の研究や学校生活、「そらそうじゃ」の活動状況等定期的な広報等を作成する。 また、農大ホームページその他の情報発信ツールを活用して農業関係機関、関連企業、高等学校だけでなく、一般社会に対しても積極的に情報発信を行う。	教育活動に関する広報紙を年間12回以上作成して公開する。 ホームページを2週間程度で更新し、最新の情報を地域社会に発信する。	広報「Go!Go!農大2016」を毎月1回または2回発行し、大学校内に掲示するほかHPに掲載している。 「そらそうじゃ」の活動を、タブレット端末を使用し、SNS(フェイスブック)に掲載している。出張販売において、タブレット端末を持参し、オンタイムに販売状況をSNSで発信した。 ホームページは、定期的な更新の形ではなく、新たな情報をその都度掲載しており、平均すると月2回よりは多くなっている。 今年度より新たに、メールマガジン「アシスト農大」を開始し、ホームページにて、サポーターの登録者を募集し、情報発信を行っている。	A		広報「Go!Go!農大2016」の発行が、本年度後期は遅れがちになっている。次年度は、学校行事の状況などをタイムリーに発信できるよう心がける。
	3 本校の教育活動に関して積極的な情報発信・広報活動を行い、未来の徳島県農業を担う意欲と活力に満ちた新入学生を確保する。	高校訪問を年間2回以上行い、高校でのガイダンスにも積極的に参加する。 また、義務教育や高等学校の依頼があれば、キャリア教育に係る体験的な活動の実施に協力する。	高校訪問を年間2回行い、高校でのガイダンスにも積極的に参加した(年間18回)。 また、学校農業クラブリーダー研修会及び那賀高校のキャリア教育に係る体験的な活動の実施に協力した。	A		高校ガイダンスについては、体験型模擬授業への工夫と配慮が必要。